

[早良演習林研究室]マツ類の造林試験(要因配置による分割試験)

垣内, 重三郎
九州大学農学部附属演習林 : 助手

保坂, 保
九州大学農学部附属演習林 : 技能員

<https://doi.org/10.15017/1456194>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和39年度, pp. 60-60, 1965. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



早良演習林研究室

1 海岸クロマツ林の林分構成ならびに成長量調査

垣内 重三郎
保坂 保

過去3回の調査の結果の比較を、青木助教授・柿原教官の協力を得て行い、その結果を演習林集報4620に発表した。

その後の異動は下表のとおりである。

項 目	昭和37年度末 調 査	昭和38年度 払下数量	昭和39年度 払下数量	現在数量	備 考
本 数	本 22,782	本 639	本 1,036	本 21,107	成長量は2.45%となつているが 成長量は加算していない。
材 積	m ³ 9,299	m ³ 241	m ³ 499	m ³ 8,559	

この表から、年間の成長量（昭和38年222m³、昭和39年215m³）を、はるかに上廻つて伐採している。このことは、保安林の維持管理上からは、憂慮すべき現象であるが、その原因についてみると昭和38年度は、松毛虫の異常発生によるものであり、昭和39年度は、前年度の被害の延因によるものでその、駆除、防除に重点をおいたためである。さらに加えて道路敷、貸付地敷の保安林解除地の立木を含んでいることが基因となつているが、昭和40年度は虫害による被害は軽微となるものと思料される。

2 マツ類の造林試験（要因配置による分割試験）

垣内 重三郎
保坂 保

樹種（クロマツ、テーダーマツ、スラツシユマツ）、肥料（マルリンスーパー1号）、土壌（耕作の影響を受けていない赤土）をラテン方格式に組合せた要因配置による分割試験を木梨助教授指導のもとに、昭和39年度より実施したが、異常なる心喰虫の発生による喰害と例年にない干害から、調査対照としては欠点が多いので、更に昭和40年実施の予定である。